

20102

心筋炎再発？～PCPS・IABP 装着患者他院搬送の経験～

<sup>1</sup>国立病院機構 長崎医療センター

杉山 哲司<sup>1</sup>、竹山 裕也<sup>1</sup>、寺下 真吾<sup>1</sup>、谷脇 裕介<sup>1</sup>

39 歳女性、身長 154.9cm、体重 44.4kg、BSA 1.39m<sup>2</sup>。6 年前に劇症型急性心筋炎の診断により当院入院される。IABP・PCPS 導入するもその後軽快退院された。以後当院循環器内科においてフォローされていたが、発熱が持続するため当院外来を受診され、急性心筋炎の診断で緊急入院となった。当日深夜に IABP 導入するも心機能がさらに低下し、翌日準夜帯には PCPS を導入した。その後も心機能改善なく、持続性心室頻拍の頻回出現などもあり、PCPS の離脱困難と判断。LVAD を含めた治療を考慮し IABP、PCPS、人工呼吸器使用にて長崎大学病院に救急車で転院搬送となった。本症例は二度目の劇症型心筋炎？であったため、他院搬送を予見しており、搬送中の循環動態維持のための IABP・PCPS・人工呼吸器などの供給電源や予備電源・設置場所の確保などの確認作業を前もって行っていた。二度目の劇症型心筋炎？を発症した PCPS・IABP 装着患者を、救急車にて他院搬送した症例を経験したので反省も含めて報告する。